

おやま道をたどる⑤

中の茶屋から馬返し丁度中間地点に「大石小屋」がありました。かつては近くにバス停もあったとのことですが、小屋は倒壊し、見る影もありません。



「馬返し」とは「登山道で道が険しくなり、乗ってきた馬を返して徒歩に変わる地点」の意ですが、実際には七合目付近まで馬を使うことができますので、馬車の限界と考えたほうが良いようです。少し時代が下ると自動車の駐車スペースとして使われました。

この場所は「草山」と「木



山」の境でもあったようです。往事は、大月から富士吉田を経由して左のような馬車が行き交っていたのでしょう。



右の絵葉書の石灯籠の右手の茶店は大文司屋、左手が鍋屋、正面は富士山ホテルです。



この石鳥居は石灯籠から四百m程奥に建っています。文

政九年に渋谷道玄坂の吉田平左衛門が願主として寄進されました。

奥に見えるのは、禊所です。文字通り、登山者の禊をするために建てられました。この禊所の建立は意外に新しく大正年間の創立とのこと、かつての登山道を塞ぐ形で建てられていました。この禊所は廃屋となり、鳥居も崩れていましたが、近年富士吉田市によって整備されました。鳥居と禊所が映った画像は他には無く、案内板の写真にはこの絵葉書が使われています。



金剛杖の焼印は、今では五合目以上でしか見ることができませんが、かつては馬返しでも焼印が押されていました。右は、西暦二千年に行われる予定だった「2000年ミレ

ニアム富士吉田登山」の記念品に押された限定の焼印です。この企画は、旧道を五合目まで歩くトレッキングの予定でしたが、残念ながら台風のために中止になってしまいました。無理を言って分けていただいた幻の一品です。

聖地巡拝 ⑤

富士講歴代の墓所

今回は趣向を変えて、富士講歴代の尊師の墓所をご案内いたします。

●専修院

豊島区駒込七二一四

慶長二年（一五九七）創建の古刹ですが、明治四十一年に浅草から現在地に移転されました。この地は、ソメイヨシノの開発者として知られる植木職「伊藤伊兵衛（！）」の屋敷跡とのこと。左の写真は二十年程前のものです。で、若干趣は異なっていると思いますが、角行師から近代までの歴代の富士講尊師の墓碑がお祀りされています。